

慶應義塾大学経済学部

大垣昌夫研究会 2022 年度研究グループ論文

他者評価を重視する世界観が贈与行動に与える影響

青木隆太郎^a 白井淳之助^b 益田佳^c

2022 年 9 月 30 日

要約

本研究では、日本人の特徴的な世界観であるといえる、「他者からの評価を重視する傾向」と、「プレゼントを始めとする金銭・時間の贈与行動」に着目し、「(1) 他者評価を重視する世界観が強い人の方が、贈与行動をする傾向にある」「(2) 他者の効用増加によって自身の効用も増加する社会的選好が強い人の方が、贈与行動をする傾向にある」「(3) 所属するコミュニティにおいて、贈与しないことを悪しとする規範が強いほど、贈与行動がされる傾向にある。」というつの研究仮説を立てた。大学生を対象にしたアンケート調査を実施したところ 403 件の回答があり、その内 365 件が有効回答として認められた。このアンケート結果をもとに重回帰分析をし、片側検定を行ったところ、研究仮説(1)では、54 件中 24 件、研究仮説(2)では、54 件中 35 件、研究仮説(3)では、54 件中 41 件の仮説と整合的かつ有意な結果が得られた。本研究の分析結果を応用することは、寄附やボランティア活動など、社会に大きな価値を創出する贈与行動の拡大に貢献すると考えられる。

JEL 分類番号： D9

キーワード：世界観，他者評価，社会的選好，規範，贈与行動

本研究の遂行にあたり、本研究会の大垣昌夫教授、12 期のメンターの方々から終始多大なご指導を賜った。ここに記して感謝を申し上げる。

a 青木隆太郎 慶應義塾大学 経済学部 ryutaro.aoki@keio.jp

b 白井淳之助 慶應義塾大学 経済学部 shirai@keio.jp

c 益田佳 慶應義塾大学 経済学部 masudakei@keio.jp

1. はじめに

贈与行動は、古来より行われている。人類は遙か昔から簡単な贈与行動を開始したと考えられている。日本においても贈与行動の歴史があり、人類の進化は贈与をはじめとする利他的な行動ともにあったと考えられ、これがホモサピエンスを他の動物を差別化する大きな要因の1つとなっているのは間違いないだろう。現代社会においてもボランティア活動やプレゼントなどの時間や金銭的な贈与行動が人々の生活に浸透している。

しかし、日本と欧米諸国では、贈与行動に大きな差がある。例えば、旅行後にお土産を渡す文化は日本に根付いているものの、欧米諸国ではあまり行われていない。逆に、寄付に関しては、欧米諸国では盛んに行われているものの、日本では行う人は少ない。このような日本人の独特な贈与行動パターンには、特徴的な世界観が影響しているのではないか。Benedict(1946)は日米の文化比較の中で、日本は恥の文化であるとし、恥の意識について「世間の評価を気にしながら行動し、他人から批判されることへの恐れから善行を行うという他律的な道德観念」と定義した。そこで我々は、日本人に特徴的な「他人からの評価を重視する世界観」をテーマに据えて研究を行った。

本研究では、世界観の定義を Hiebert(2008, 訳文は大垣・田中(2018))より「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質についての認識、感情、判断に関する基礎的な仮定と枠組み」とした。世界観に加え、贈与行動に大きな影響を与える要素として、社会的選好と規範を導入する。社会的選好を大垣・田中(2018)より「ある個人の選好を表す効用関数に自分の消費や利得だけでなく、他者の消費や利得が変数として入ってくるような選好」、規範を Akerlof and Kranton(訳文は大垣・田中(2018))より「ある社会的文脈の中で人々の、彼ら自身と他の人たちがどのように行動すべきか、についての考え」と定義する。

「他者評価を重視する世界観、他者の効用増加によって自身の効用も増加する社会的選好、贈与しないことを悪しとする規範が強いほど、贈与行動をする」という因果関係を考えた研究仮説を設定し、これを複数の質問を用いて検証する。さらに、結果から、世界観、社会的選好、規範の贈与行動に対する傾向を考察する。

2. 研究仮説

本研究では以下の3つの研究仮説を立てた。ここで取り扱う「贈与行動」とは、金銭的贈与・時間的贈与の双方を指す。

研究仮説(1)：他者評価を重視する世界観が強い人の方が、贈与行動をする傾向にある。

研究仮説(2)：他者の効用増加によって自身の効用も増加する社会的選好が強い人の方が、

贈与行動をする傾向にある。

研究仮説(3)：所属するコミュニティにおいて、贈与しないことを悪しとする規範が強いほど、贈与行動がされる傾向にある。

仮説を立てた理由に関して

(1)：他者の評価を重視する世界観が強い人の方が、より多くの金銭や時間の贈与を通して相手からの信用・評価を得ようとすると考えた。

(2)：他者の効用増加によって自身の効用も増加する社会的選好を持つ個人は、他者の利得と自身の利得が正の比例をする利他的な効用関数を有しており、自身の効用を増加させるために、贈与行動を通して相手を喜ばせようとすると考えた。

(3)：所属するコミュニティにおいて「贈与しないことを悪しとする」という規範が存在した場合、その規範から乖離した行動は効用を低下させるという効用関数の導入が可能であると考えられる。このような効用関数を持つ個人は、規範から乖離した行動を避けるために、より贈与行動をすると考えた。

3. 研究意義

当研究の意義は、贈与行動に与えると予想されるいくつかの要素を分析することで、金銭的・時間的贈与のメカニズムを明らかにし、その結果をさらに応用することで、寄付やボランティア活動など、社会に大きな価値を創出する贈与行動の促進を可能にすることである。日本が他の先進国に比べて、寄付などの贈与行動が習慣化していないことは大きな社会課題であると考えられるが、これらの社会への贈与行動の拡大に貢献する可能性において、当研究結果の応用は、社会的意義があるのではないだろうか。また、この利他的な行動が対象である問題に対して、経済人の仮定を置かない行動経済学の視点からアプローチすることは非常に重要である。

4. 研究方法

Google Form を利用してアンケートを作成し、大学生を対象に LINE・Instagram などの SNS を用いて拡散した。調査期間は 9/10～9/15 の 5 日間を設け、367 件の有効回答を得た。質問 2～7 が世界観を測る質問、質問 8 が社会的選好の強さを測る質問、質問 9 が意思決定において他者評価を意識することに対する抵抗度合いを測る質問、質問 10 がカテゴリ重視か関係性重視かを測る質問、質問 11 がプレゼントの贈与行動におけるコミュニティ内の規範の強さを測る質問、質問 12～19 がプレゼントの贈与行動に関する質問、質問 20 が時間の贈与行動におけるコミュニティ内の規範の強さを測る質問、質問 21～23 が時間の贈与行動に関する質問である。

得られたデータを数値に換算し、世界観・社会的選好・規範・他者評価に対する抵抗度合い・関係性を重視する度合いを説明変数、経済行動を被説明変数として重回帰分析し、片側検定によって有意性の評価を行った。なお、いずれも数値が大きいほど世界観・社会的選好・規範・他者評価に対する抵抗度合い・関係性を重視する度合いが強いことを表している。

5. 研究結果

今回のアンケート結果を数値化し、平均値、標準偏差、最大値、最小値の記述統計量を計算した。女性を0、男性を1と置き換えた。

記述統計量をもとに、質問の評価を行う。総評として、質問でおおむね偏りのない回答が得られており、今回の標本が分析の信憑性を損なう問題をはらんでいるような質問であった可能性は低いと考える。

表1 記述統計量グラフ

質問内容	平均	標準偏差	最大値	最小値
性別	0.56044	0.497017	1	0
世界観①:自分が他人にどう見られるか気になる	3.554945	1.215036	5	1
世界観②:自分は褒められることを重視する	3.524725	1.109411	5	1
世界観③:他者からの高評価を得ることを重視する	3.648352	1.079472	5	1
世界観④:他者からの低評価を避けることを重視する	3.601648	1.198299	5	1
世界観⑤:人からどう見えているか気になる	3.659341	1.163918	5	1
世界観⑥:なるべくたくさんの人に好かれることを重視する	3.277473	1.24756	5	1
社会的選好:友人だけがくじを当てたときに、自分も嬉しい	3.442308	1.090642	5	1
人の目に対する態度:何かを決めるときに、人の目を意識しないようにすべき	2.516484	1.158156	5	1
関係性重視度合い:サル、バナナ、パンダのうち仲間はどれか	0.230769	0.421905	1	0
規範①:親しい友人に誕生日プレゼントを贈らないのは、不適切か	2.634615	0.813799	5	1
経済行動①:5万円もらった条件下で、親友の誕生日プレゼントにいくら使うか	10451.37	10684.54	60000	0
経済行動②:親しい友人への5000円の誕生日プレゼントにどのラッピングを選ぶか	2.873626	0.749999	4	1
経済行動③:あなたは親しい友人へのお返しにどのようなプレゼントを選択するか	3.087912	0.403793	4	1
経済行動④:親しい友人の誕生日までに空いている日がない場合どうするか	2.373626	0.558399	3	1
友人数:親しい友人が何人いるか	3.315934	1.058441	5	1
交際費:月の交際費はいくらですか。(数字のみ、単位は円)	30276.1	34606.25	450000	0
経済行動⑤:去年1年間に友人への誕生日プレゼントにいくら費やしたか	21299.73	20732.91	170000	0
経済行動⑥:去年1年間に何人の友人に誕生日プレゼントを渡したか	4.288462	3.180827	20	0
規範②:所属するコミュニティにおいて、頼みごとを断ることに對して不寛容か	2.266484	0.934716	5	1
経済行動⑦:コミュニティのための頼みごとをどの程度断ることができるか	2.851648	1.031179	5	1
経済行動⑧:コミュニティにとって必要不可欠だが、時間のかかる仕事を頼まれた時どうするか	3.75	0.69284	5	1
経済行動⑨:コミュニティにおいて任意参加のミーティングがあった時にどうするか	3.436813	0.819102	5	1

表2 経済行動と世界観，社会的選好，規範の重回帰分析結果¹

被説明関数	説明変数①			説明変数②			説明変数③		
	世界観	係数	有意	社会的選好	係数	有意	規範	係数	有意
①	①	-823.237		周りと比較して、友人と同じくじを購入して、友人だけが当たったときに、自分も嬉しく思う。	174.7362		①	1456.49	**
	②	-1207.95			45.43685			1460.076	**
	③	-478.498			231.8167			1347.983	**
	④	-610.395			237.5776			1358.1	**
	⑤	-191.491			265.7214			1316.467	**
	⑥	146.4746			294.1015			1291.412	**
②	①	-0.01736			0.020565			0.108942	**
	②	-0.02915			0.017119			0.109558	**
	③	-0.0239			0.020336			0.108537	**
	④	-0.05652			0.018755			0.112254	**
	⑤	-0.02237			0.020981			0.109216	**
	⑥	-0.0244			0.020701			0.103841	**
③	①	0.013905			0.044332	**		0.086383	***
	②	0.022549			0.046935	***		0.086007	***
	③	0.054731	***		0.048203	***		0.081858	***
	④	0.010618			0.043293	**		0.088007	***
	⑤	0.003681			0.042832	**		0.088669	***
	⑥	0.010235			0.043416	**		0.08992	***
④	①	0.042702	**		0.048493	**		0.096469	***
	②	0.051953	**		0.053108	**		0.097855	***
	③	0.077332	***		0.050975	**		0.094942	***
	④	0.033475	*		0.045363	**		0.101349	***
	⑤	0.051573	**		0.047186	**		0.096406	***
	⑥	0.006293			0.043504	*		0.105851	***
⑤	①	472.8808			3009.493	***		4637.531	***
	②	482.0916			3041.004	***		4665.203	***
	③	152.5186			2963.605	***		4714.318	***
	④	-1413.9			2851.471	***		4904.855	***
	⑤	725.1912			3007.499	***		4613.944	***
	⑥	454.3808			2988.958	***		4763.039	***
⑥	①	0.203355	*	0.324413	**	0.541946	***		
	②	0.398033	***	0.374559	***	0.525937	***		
	③	0.279404	**	0.325853	**	0.544919	***		
	④	0.181053	*	0.310609	**	0.562531	***		
	⑤	0.243746	**	0.318014	**	0.543244	***		
	⑥	0.278418	**	0.322974	**	0.600904	***		
⑦	①	0.246149	***	0.003463		0.222431	***		
	②	0.181425	***	0.00548	*	0.21763	***		
	③	0.170951	***	-0.01184		0.222061	***		
	④	0.215697	***	-0.01405		0.221168	***		
	⑤	0.213931	***	-0.01101		0.226046	***		
	⑥	0.182249	***	-0.01527		0.220287	***		
⑧	①	0.051214	**	0.05618	**	-0.02679			
	②	0.034588		0.05598		-0.02766			
	③	0.029335		0.052329	*	-0.02676			
	④	0.067954	**	0.054254		-0.02744			
	⑤	0.044341	*	0.053153	*	-0.02603			
	⑥	-0.00162		0.049062	*	-0.02625			
⑨	①	0.026469		0.090058	**	-0.08484			
	②	0.021805		0.090725	**	-0.08545			
	③	0.039731		0.090694	**	-0.08522			
	④	0.054149	*	0.09048	**	-0.0855			
	⑤	0.032975		0.089392	**	-0.08439			
	⑥	0.077745	**	0.092779	***	-0.08651			

¹ *は1%有意，**は5%有意，***は10%有意である。

人の目に対する態度，関係性重視度合い，友人数や交際費（経済行動⑤，⑥のみ）の質問を統制のために説明変数として導入している。

6. 考察

研究仮説(1)に対して、重回帰分析の結果、54本のうち、約45%にあたる24本で有意が見られた(1%有意:9本, 5%有意:10本, 10%有意:5本)。最も強く有意が見られた世界観は、Q4「周りと比較して、他者からの高評価を得ることを重視する方だ」。一方で、Q5「周りと比較して、他者からの低評価を避けることを重視する方だ」という質問ではそれほど有意が見られなかった。以上から、日本人の、友人へのプレゼントやコミュニティへの貢献などの贈与行動は、他者からの評価を落とさないためではなく、より高い評価を得るためという意味合いが強い。しかしながら、寄付行動、ボランティア活動のように全く知らない他者への贈与行動が存在しており、「他者評価を重視する世界観」だけが贈与に関連しているとはいいがたく、研究仮説(2)(3)の検証も必要である。

研究仮説(2)に対して、重回帰分析の結果、54本のうち、約65%にあたる35本で有意が見られた(1%有意:10本, 5%有意:19本, 10%有意:6本)。社会的選好においても有意が見られた。金銭的贈与、時間的贈与の対象としてそれぞれ「親しい友人」、「所属するコミュニティ」とした。今回の調査結果では、金銭的贈与に関して、重回帰分析の結果、36本のうち22本、時間的贈与に関して、重回帰分析の結果、18本のうち7本の有意が見られた。回答者の大多数が大学生であることを考慮すると、時間的贈与の方が負担として小さいと考えられるが、金銭的贈与の相手が近い存在であったために、金銭的贈与の質問において有意が見られたと考えられる。

研究仮説(3)に対して、重回帰分析の結果、54本のうち、約75%にあたる41本で有意が見られた(1%有意:29本, 5%有意:12本)。3つの仮説の中で、最も有意が見られたのは所属するコミュニティにおける規範である。日本人は欧米人よりも、関係性を重視する人種である。「空気を読む」という言葉が浸透しているように、コミュニティの関係性を重視することが多い。序論でも述べたことが、研究結果にも表れた。今回のように規範で最も有意が見られるのは、日本人が関係性を重視しているためであるといえるだろう。

7. おわりに

今回の研究を通じて、他者への贈与行動に関して、「他者の評価を重視する世界観」、「社会的選考」「所属するコミュニティの規範」が影響しているということができ、序論で立てた仮説(1), (2), (3)は証明された。

引用文献

- 大垣昌夫・田中沙織, 2018. 行動経済学. 有斐閣, 東京.
Ruth Benedict, 1946. 菊と刀. 講談社, 東京.